

⑰ 淡路北スマートインターチェンジ整備事業

受賞機関 株式会社夢舞台、本州四国連絡高速道路株式会社、淡路市

キーワード 全国初供用の民間直結型スマートIC、利便性の向上、産業振興の活性化

全建賞審査委員会の評価ポイント

淡路ハイウェイオアシスや淡路サービスエリアへのアクセス向上に寄与する淡路北スマートインターチェンジの整備。全国初の民間直結型スマートインターチェンジとして完成させた点や、観光客の利便性向上・地域活性化に寄与している点が評価された。

1. はじめに

令和2年3月29日淡路島の北端（淡路市岩屋）に、（株）夢舞台、本州四国連絡高速道路（株）及び淡路市で整備を進めてきた「淡路北スマートインターチェンジ（IC）」が開通した。本スマートICは、「淡路ハイウェイオアシス（HO）」＝民間施設に直結され、供用された全国初のスマートICである。

2. 事業の概要

これまで淡路ICから流入すると、道路の構造上、淡路HOや淡路SAを利用できず、淡路島北部を観光した後に淡路HOや淡路SAを利用するには、手前の東浦ICから流入しなければならなかった（淡路HOには隣接する有料駐車場から徒歩のみ利用可能だった）。また、観光シーズンには淡路ICに流入する車が集中し、周辺道路で渋滞が発生していることも課題となっていた。

これら課題解決のため、平成29年創設の「民間施設直結スマートIC制度」を活用し、平成31年3月から、淡路HOに直結するスマートIC整備事業に着手した。

本スマートICは入口専用で、ETC搭載かつ車長12m以下の車両限定であり、既存施設を活用したコンパクトな構造と用地買収が不要であったことから、事業着手後1年で完成することができた。

今回の整備により、本スマートICを經由して、淡路HOや淡路SAで食事や買い物をした後に、高速道路本線に合流できるほか、地域の方々が車で淡路HOや淡路SAだけ利用いただけるようになった。



スマートIC開通式（令和2年3月29日）の様子

3. 事業の成果

1) 淡路HO・淡路SAの利便性向上

本スマートICの開通以降、3度の緊急事態宣言期間を経たが、1回目の解除後には淡路北部の3IC（東浦、淡路、淡路北スマート）の日交通量が前年度を上回り、シルバーウィーク期間ではスマートIC日平均利用台数が計画（600台/日）の約2倍となった。

また、昨夏の本スマートIC利用調査では、約5割の方が淡路HOを利用しており、東浦IC利用時より移動時間が10分短縮されるなどの利便性が向上した結果が窺える。

2) 地域経済の活性化

さらに、淡路HOや淡路SAへのアクセス性が向上し、両施設の利用客の増加を見越して、パスタ&ピザ専門店が淡路HOに新規オープンした。飲食店や土産物店では、淡路島の豊かな食材や農・海産物を利用した新商品の開発等、産業振興の活性化につながっている。

加えて、高速道本線への流入ルートが増えたことから、分散流入により淡路IC周辺道路の渋滞が解消され、観光客・地域住民ともに行動意欲が向上し、地域経済への波及拡大も期待している。



スマートIC・淡路HO・淡路SAの全景

4. おわりに

淡路島は京阪神地域から旅行気分を味わうにちょうどいい距離感を有し、淡路市域では新しい集客施設の立地が進んでいることもあり、コロナ禍にあって自家用車での来島者が増えている。

スマートIC開通後、ETCレーン着色表示や誘導看板設置等の対策を行い、より利用しやすいスマートICの改善にも努めてきた。今後も、関係3者をはじめ、周辺の観光施設や地元の方々とも連携して本スマートICの利活用を推進し、淡路島北部の活性化につなげていきたいと考えている。